



18:1 さて、モーセのしゅうと、ミデヤンの祭司イテロは、神がモーセと御民イスラエルのためになされたすべてのこと、すなわち、どのようにして主がイスラエルをエジプトから連れ出されたかを聞いた。

18:2 それでモーセのしゅうとイテロは、先に送り返されていたモーセの妻ツポラと

18:3 そのふたりの息子を連れて行った。そのひとりの名はゲルシヨムであった。それは「私は外国にいる寄留者だ。」という意味である。

18:4 もうひとりの名はエリエゼル。それは「私の父の神は私の助けであり、パロの剣から私を救われた。」という意味である。

18:5 モーセのしゅうとイテロは、モーセの息子と妻と一っしょに、荒野のモーセのところに行った。彼はそこの神の山に宿営していた。

18:6 イテロはモーセに伝えた。「あなたのしゅうとである私イテロは、あなたの妻とそのふたりの息子と一っしょに、あなたのところに来ています。」

18:7 モーセは、しゅうとを迎えに出て行き、身をかがめ、彼に口づけした。彼らは互いに安否を問い、天幕にはいった。

18:8 モーセはしゅうとに、主がイスラエルのために、パロとエジプトとになされたすべてのこと、途中で彼らに降りかかったすべての困難、また主が彼らを救い出された次第を語った。

18:9 イテロは、主がイスラエルのためにしてくださいましたすべての良いこと、エジプトの手から救い出してくださいましたことを喜んだ。

18:10 イテロは言った。「主はほむべきかな。

主はあなたがたをエジプトの手と、パロの手から救い出し、この民をエジプトの支配から救い出されました。

18:11 今こそ私は主があらゆる神々にまさって偉大であることを知りました。実に彼らがこの民に対して不遜であったということにおいても。」

18:12 モーセのしゅうとイテロは、全焼のいけにえと神へのいけにえを持って来たので、アロンは、モーセのしゅうととともに神の前で食事をするために、イスラエルのすべての長老たちといっしょにやって来た。

出合いは私たちの喜びです。長く交わりができなかったイテロに対して、モーセは忙しい中にも礼を尽くして迎えました。そして主のすばらしさを伝えたのです。神様があなたに与えてくださった恵みを分かち合っているでしょうか。そのことが話題になっているのでしょうか？

モーセのように神様の働きで忙しい人は、案外家族をおろそかにしがちかもしれません。家族への救いこそが、何よりも大切です。最も身近な人にはごまかしがききません。自分の本当の姿が問われます。あなたはいかがでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

